

年 度 評 価 シ ー ト (令 和 2 年 度)

課名 障害福祉企画課

施設の名称 静岡市桜の園 静岡市桜の園生活訓練ホーム	指定管理者名 社会福祉法人恩賜財団済生会支部 静岡県済生会		
1 履行状況			
業務仕様書及び事業計画書に従って概ね適切に履行されている。			
(1) 維持管理業務			
①健康管理			
<ul style="list-style-type: none"> ・血液検査、尿検査、胸部レントゲン検査等の実施により、利用者の健康管理が適正に行われている。 			
②危機管理、防災対策			
<ul style="list-style-type: none"> ・防災マニュアルに則り、年間を通じて地域等と連携し、計画的に訓練等を実施し利用者の安全確保に努めた。 ・防災訓練（月 1 回）は様々な事態を想定した内容の訓練が行われており、適切な活動となっている。併せて防犯対策についても取り組みいただきたい。 ・防犯カメラの設置を行い、安心できる環境を整えた。 			
③建物・設備等の保守管理業務			
<ul style="list-style-type: none"> ・建物や設備の保守管理は第三者委託により実施し、各業務とも適切に行われている。 ・各種定期点検を実施し、不具合等が確認された場合、速やかに修繕等の措置が取られた。 			
(2) 施設利用者数			
施設種別	定員	1 日平均利用者数 ※（ ）は前年度実績	年間延べ所在者数 ※（ ）は前年度実績
施設入所支援	50	49.5 (47.4) 人	18,054 (17,348) 人
生活介護	50	49.5 (47.7) 人	12,913 (12,477) 人
生活介護（通所）	30	17.5 (17.3) 人	4,266 (4,186) 人
短期入所	5	2.6 (3.7) 人	930 (1,321) 人
日中一時支援	—	0.2 (0.2) 人	41 (36) 人
入所は 3 月末に 1 人退所するまでは満床の 50 人を維持することができ、事業計画上の目標 (48.8 人) を達成した。短期入所は新型コロナウイルス感染症の影響を受け目標 (3.8 人) を達成できなかった。生活介護（通所）も目標 (22.2 人) が未達成となっているが、コロナの影響以外にも要因は考えられるため、利用者数の増加に向け、市と指定管理者で協議をしていく必要がある。			

(3) 事業実施状況

①施設運営関係

- ・地域交流やボランティア・実習生の受け入れにより利用者と地域住民が交流する機会が設けられ、障がい施設に対する地域住民の理解を深める取り組みが行われている。
- ・職員研修実施により、専門的知識及び技能の習得、職員の資質向上に努めた。
- ・広報誌を昨年度の2回から3回に増やす、インスタグラムを始めるなど積極的に情報発信を行っている。

②利用者支援関係

- ・利用者の施設利用等に係る各種手続きが適正に行われた。
- ・作業療法士による集団・個別リハビリが実施され、身体機能の維持に努めた。
- ・居室替えを行うなど利用者の意向に寄り添った支援が実施されている。
- ・コロナ禍により地域や家族との交流が制限される中、施設内の行事を増やし、行事の写真や作品を展示するなど、利用者が日々の生活に潤いを感じられるような環境づくりに努めた。
- ・食事の提供については、全国の料理や地元料理を取り入れた特別メニューの提供回数を増やす、事前にメニューの写真を掲示するなどの工夫を行っている。

2 市民（利用者）からの意見・要望の内容とその対応状況の評価（クレーム対応 等）

利用者からの意見・要望については随時受付けている。苦情については法人の苦情取扱要綱に基づいて対応しており、重要な案件については法人が設置している第三者委員会へ報告し、協議することとしている。

3 市民（利用者）へのアンケートや満足度調査の状況評価

(1) 市民アンケート

本施設は、身体障がいのある人が、入所及び通所する施設であるため、利用者が限定されており、広く市民一般を対象としたアンケートは実施していない。

(2) 利用者満足度調査

施設利用者及び利用者の家族に対して年1回満足度調査を行っている。「桜の園を利用して良かったと思いますか？」の問いに「はい」「まあまあ」と回答した割合は利用者が70%、利用者の家族が96%であった。利用者に対し、より高い満足度が得られるよう、アンケート結果を踏まえ、職員一丸となって利用者のニーズに寄り添った支援検討を重ねていただきたい。

食事については、10%の利用者が「満足していない」と回答したが、昨年度の29%から大幅に改善されている。全国の料理や地元料理を取り入れた特別メニューの提供回数を増やす、事前にメニューの写真を掲示するなどの工夫による結果だと評価できる。

4 指定管理者の経理状況の評価

平成28年度より利用料金制を導入しており、平成29年度から赤字が続いていたものの、令和2年度は2,068万円の黒字となった。コロナ対策のため外出や面会を抑制したため体調を崩し長期の入院につながるようなことがなかったこと、正規職員の退職者が

減り安定的に人員が確保できたことによる報酬への人員配置体制加算が維持できたことが要因だと考える。

今後は、課題である生活介護（通所）の利用者の増加を図るため、新規利用者の獲得、人員の確保などに努め、安定的な経営を目指すことが求められる。

5 総括的な評価（課題事項・指摘事項及びそれらの改善状況 など）

前年度事務事故発生の有無	無
前年度モニタリング調査における改善協議事項の有無	無

施設全体の運営は、適切な人員配置及び業務委託のもと、概ね事業計画通り実施されており、施設の保守・点検等も、必要な維持管理が適宜なされている。

財務運営については黒字に改善されている。安定した経営を目指すため、新規利用者の獲得、人員の確保など、生活介護（通所）の利用者の増加に努められたい。

新型コロナウイルス感染症対策は適切に行われている。コロナ対策により外部との交流が制限される中、利用者が満足して利用できるよう工夫した事業が行われている。利用者満足度調査においても良好な結果が得られており、さらに利用者の満足度を高めるよう職員一丸となった支援検討を重ねていただきたい。

今後も利用者の意見等を随時取り入れるとともに市と協議を行いながら、良好な施設運営を維持していくよう努めていくこと。